

平成29年度 福島県保険者協議会医療費調査部会事業報告【概要版】

我が国では生活習慣病による死亡率が年々増加し生活習慣病予防対策が喫緊の課題となっています。福島県は男女ともに平均寿命、健康寿命が全国低位にあり、疾病別年齢調整死亡率についても、心疾患、脳血管疾患が全国低位に位置しています。福島県の健康指標は全国的に悪い状況であり、効果的な生活習慣病対策が求められます。

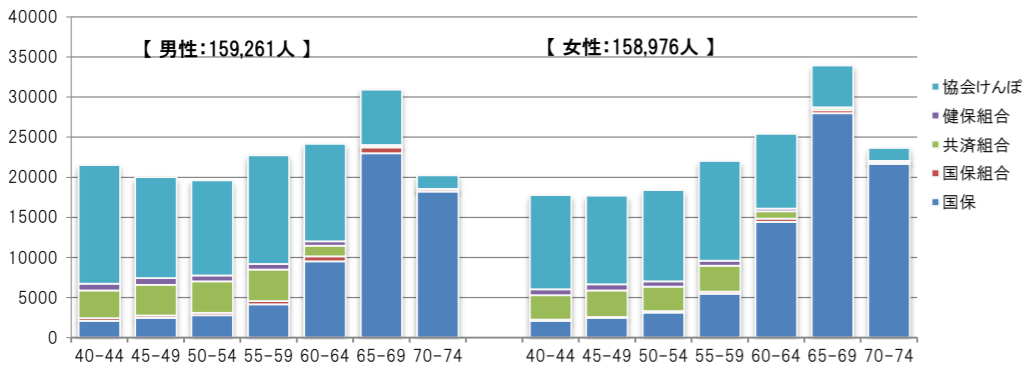
40歳以上の県民が受診する特定健診データおよび75歳以上（65歳〜74歳の一定の障害があると認定された者を含む）の県民が受診する後期高齢者健診は、県民の健康づくり、生活習慣病予防対策等を行う上で非常に重要なデータです。

今年度、福島県保険者協議会では、県内15医療保険者のうち14医療保険者の健診データの集約分析を行い資料化いたしました。本資料を県民の健康施策の基礎資料として広くご活用いただければ幸いです。

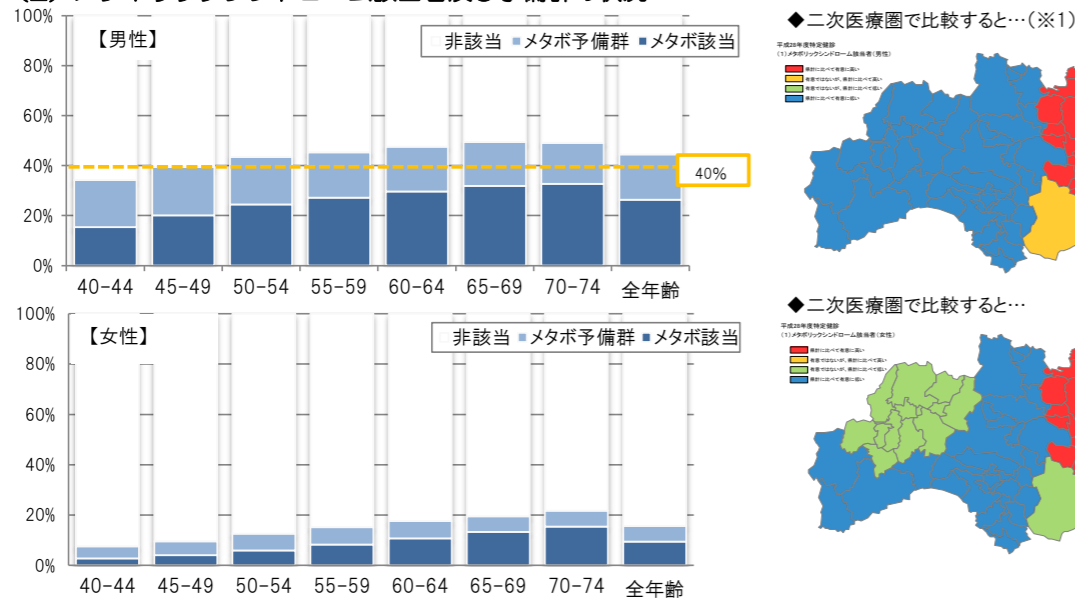
I. 特定健診結果の概要

本報告は、平成28年度特定健診データ提供に同意頂いた国保（市町村国保・国保組合）、共済組合、健保組合、協会けんぽのデータを分析しました。提供いただいたデータすべてを分析の対象としました。

(1) 分析対象の状況



(2) メタボリックシンドローム該当者及び予備群の状況



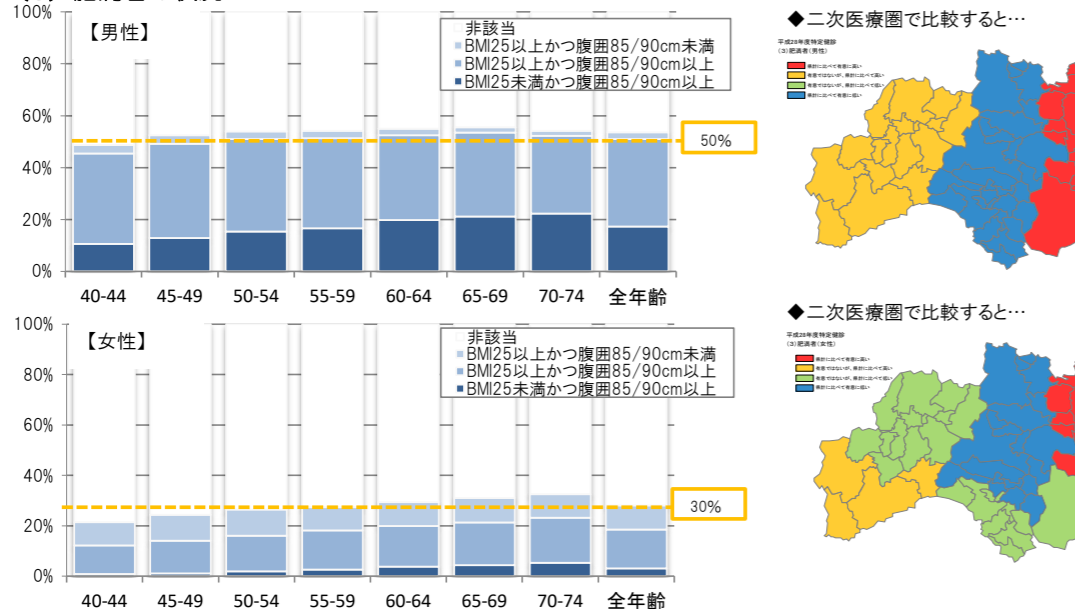
福島県男性のほぼ2人に1人が、女性の5人に1人が「メタボ・メタボ予備群」です！

メタボ該当者は男女ともに加齢により増加傾向にあります。予備群は全年代にほぼ同じ割合で見られます。

男性・女性ともに相双地区のメタボ該当者割合が高い状況です。

※H27厚労省発表において福島県はメタボ該当者率は全国ワースト第3位です。

(3) 肥満者の状況

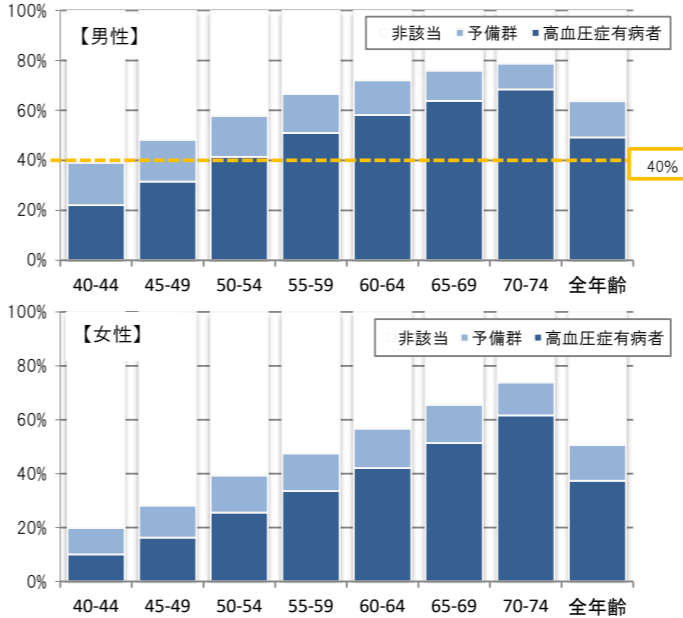


福島県男性の「肥満」は深刻です！

男性は、ほぼ全年代で2人に1人が肥満の傾向にあります。若い世代ではBMIおよび腹囲の両方で基準値以上の肥満の方が多く傾向にあります。腹囲肥満は加齢により増加しています。

女性は男性と比べ肥満者の割合は各年代とも20〜30%と低い傾向にあります。加齢とともに肥満者割合が増加し、60歳以上になると、約3人に1人が肥満者の傾向が見られます。男性と比較してBMI肥満の割合が高い傾向があります。

(4) 高血圧症有病者等の状況



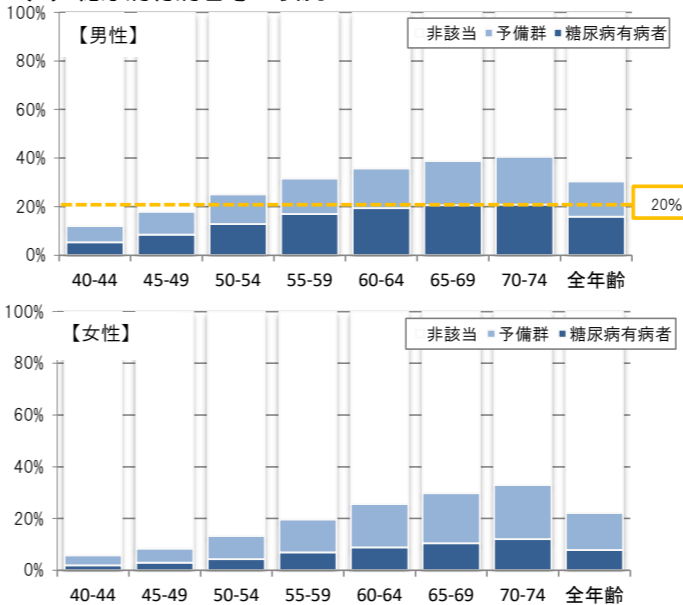
40歳代男性の約40%が、すでに「高血圧症・予備群」です

男女共、有病者及び予備群は加齢とともに増加の傾向がみられます。特に男性は40歳代で3人に1人が有病者又は予備群となっています。

相双・南会津地区の男性の有病者割合が高く、ほぼすべての年代で県平均より割合が高い傾向がみられました。

相双・いわき地区の女性の高血圧症有病者割合が高く、いわき地区では、50歳以上の年代で有病者割合が県平均より高い傾向がみられました。

(5) 糖尿病有病者等の状況



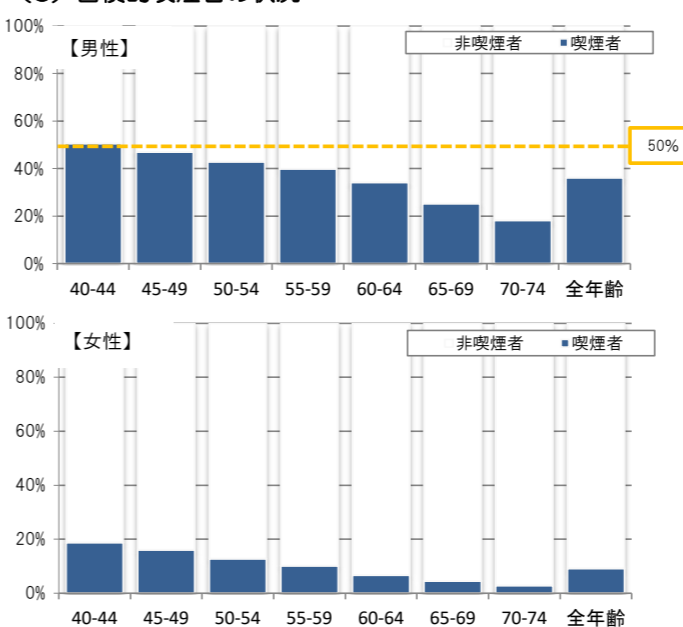
60歳以降の男性約5人に1人に「糖尿病」がみられます

男女共、有病者及び予備群は加齢とともに増加の傾向がみられます。予備群は男女共に同様の割合ですが、有病者割合は男性が女性の約2倍となっています。

男女共に相双地区が、いわき地区は男性が、有病者割合が高い状況です。

65歳未満の男性では空腹時血糖高値割合が、HbA1c高値割合より高く、女性では、全年齢でHbA1c高値の割合が空腹時血糖高値割合に比べ高い傾向にあります。

(6) 習慣的喫煙者の状況



40歳代男性の約2人に1人が「習慣的喫煙者」!

男女共に若年層の割合が高く、加齢とともに減少傾向となっています。

県北地区では男女共に、他地域に比べ、習慣的喫煙者の割合が極めて低い状況にあります。なかでも、男性では南会津地区が、女性ではいわき地区の喫煙率がより高い傾向にあります。

平成28年度国民生活基礎調査において福島県の喫煙率は22.3%（全国平均19.8%）で全国ワースト第4位です。

※1 標準化該当比 受診者の性年齢構成が二次医療圏ごとに異なるのを補正する目的で標準化死亡率(SMR)の計算方法に準じて算出した。また、二次医療圏と基準である福島県計との差が偶然であるか否かを示すためにポアソン分布を仮定した検定を行った。

■ 県計に比べ有意に高い ■ 有意ではないが、県計に比べ高い ■ 有意ではないが、県計に比べ低い ■ 県計に比べ有意に低い